

教科	科目	学年	単位数	使用教科書	主な使用補助教材
公民	公共	2	2	詳述公共(実教出版)	詳述公共マイノート(実教出版) ズームアップ公共資料(実教出版) 公共一問一答（ナガセ）

1 科目の目標と評価の観点

目標	現代の諸課題を捉え考察し，選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに，諸資料から，倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 現実社会の諸課題の解決に向けて，選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して，事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や，合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。 よりよい社会の実現を視野に，現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに，多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される，現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や，公共的な空間に生き国民主権を担う公民として，自国を愛し，その平和と繁栄を図ることや，各国が相互に主権を尊重し，各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。				
評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力		主体的に学習に取り組む態度	
	○現代社会の諸課題をとらえ、考察し、選択・判断するための手がかりとなる概念や理論について理解できるとともに、資料から倫理的な活動につなげるために必要となる情報を適切活効果的に調べ、まとめることができている。	○現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手がかりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を多面的・多角的に考察し、公正な判断や合意形成、社会参画に繋がる議論や意見発表（表現）をしている。		○より良い社会の実現に向け、公共的な空間に生きて国民主権を担う公民として、現代の諸課題に主体的に取り組もうとしている。 ○知識・技能の獲得や思考力、判断力、表現力等を用いて粘り強く取り組んでいる。また取り組もうとする姿勢がある。	

2 学習計画と観点別評価基準

学習内容	学期	学習のねらい	観点別評価基準		
			知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
1．生涯における青年期の意義	1学期（24）	○青年期は人生においてどのような意味をもっているのだろうか。 ・人生における青年期の意義を理解する。 ○青年期にはどのような特徴があるのだろうか。 ・青年期の特徴を理解する。	・青年期の意義と特徴について理解している。 ・p.9の原典資料「第二の誕生」から，第二の誕生がどのような状態であるかについて適切に読み取っている。	・人生における青年期の意義と特徴について，p.9「TRY」を利用して，多面的に考察し，適切に表現している。	・よりよい社会の実現を視野に，青年期の意義や特徴への深い理解を通して，社会に参画する自立した主体についての自覚を深めようとしている。
2．青年期と自己形成の課題		○青年期において直面する困難にどのように対処すればよいのだろうか。 ○社会のなかで自立した自己をどのように形成していけばよいのだろうか。 ・パーソナリティの理論や青年期の発達課題を理解する。	・葛藤や欲求不満とその対処法，パーソナリティの理論や青年期の発達課題について理解している。 ・p.11のCheckを通じて，防衛機制のそれぞれの内容を理解している。	・望ましい自己のあり方と自己形成について，p.13「TRY」を利用して，多面的に考察し，適切に表現している。	・よりよい社会の実現を視野に，青年期の発達課題や自己形成の課題への深い理解を通して，社会に参画する自立した主体についての自覚を深めようとしている。
3．職業生活と社会参加		○働くことや社会参加にはどのような意義があるのだろうか。 ・働くことの意義と社会参加の意義を理解する。 ○私たちはどのような社会を作っていくべきなのだろうか。	・職業のさまざまな意義と，職業選択と自己の生き方を結びつけて考えることの重要性について理解している。 ・社会参加やボランティアを通じて，社会とのかかわりが自己の形成につながること，また他者とともに協働して生きることの重要性について理解している。	・社会参加と自己形成の関連について，p.15「TRY」を利用して，多面的に考察し，適切に表現している。	・よりよい社会の実現を視野に，職業や社会参加の意義への深い理解を通して，社会に参画する自立した主体についての自覚を深めようとしている。
4．現代社会と現代の生き方		○私たちの国民性や人間関係にはどのような特徴があるのだろうか。 ・日本人の伝統的な考え方や人間関係の特徴について理解する。 ○国際社会で生きるために，私たちが身に付けるべきものとは何か。 ・国際社会で生きるために，日本人が身に付けるべき態度と能力を考える。	・日本人の伝統的な考え方や人間関係の特徴について理解している。 ・p.17のCheckを通じて，個人の独立についての福沢諭吉の主張を適切に読み取っている。 ・p.18～19の「Seminar」を通じて，日本人の伝統的な自然観や倫理観について理解している。 ・p.19のCheckを通じて，和辻哲郎の人間観を適切に読み取っている。	・国際社会に生きるために，日本人が身に付けるべき態度と能力について，p.17「TRY」を利用して，多面的に考察し，適切に表現している。	・よりよい社会の実現を視野に，日本人の伝統的な考え方や文化への深い理解を通して，社会に参画する自立した主体についての自覚を深めようとしている。
1．ギリシアの思想		○古代ギリシア人が追求した理想的な人間の生き方とはどのようなものだったのだろうか。 ・理想的な人間の生き方についてのソクラテス，プラトン，アリストテレスの主張を理解する。	・ソクラテスが唱えた，「よく生きる」ことが何であることを理解している。 ・人間の幸福な生き方についてのソクラテス，プラトン，アリストテレスの考え方を理解している。	・よく生きること，幸福に生きることについて，p.24「TRY」を利用して，多面的に考察し，適切に表現している。	・よりよい社会の実現を視野に，理想的な人間の生き方についての先哲の考え方への深い理解を通して，公共的な空間における人間としてのあり方生き方についての自覚を深めようとしている。

学習内容	学期	学習のねらい	観点別評価基準		
			知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
2. 宗教の教え		○・三大世界宗教のそれぞれの特徴を理解する。 ○各宗教は、人間の生き方や社会のあり方をどのように説いているのだろうか。	・宗教が人間の生き方や社会のあり方にどのような影響を与えているかを理解している。 ・三大世界宗教のそれぞれの特徴を通じて、人間の生き方や社会のあり方をどのように説いているのかを理解している。	・社会のなかで生きるにあたって、各宗教の教えから何を学べるかについて、p. 28「TRY」を利用して、多面的に考察し、適切に表現している。	・よりよい社会の実現を視野に、各宗教の特徴や教えへの深い理解を通して、公共的な空間における人間としてのあり方生き方についての自覚を深めようとしている。
3. 人間の尊重		○中世末期から近代初期のヨーロッパでうまれた新しい人間観や世界観とはどのようなものだろうか。 ・中世末期から近代初期のヨーロッパでうまれた新しい人間観や世界観を理解する。	・ルネサンスや宗教改革の運動によってうまれた、新しい人間観の特徴を理解している。 ・近代自然科学によってもたらされた世界観の特徴や、新しい学問のあり方を唱えたベーコンとデカルトの考え方について理解している。 ・p. 31のCheckを通じて、人間の知識についてのベーコンの主張を適切に読み取っている。	・人間を尊重することがどういうことであるのかについて、p. 31「TRY」を利用して、多面的に考察し、適切に表現している。	・よりよい社会の実現を視野に、中世末期から近代初期のヨーロッパでうまれた新しい人間観への深い理解を通して、公共的な空間における人間としてのあり方生き方についての自覚を深めようとしている。
4. 人間の尊重		○近代ヨーロッパの思想家たちは、自由についてどのように考えたのだろうか。 ・自由についてのカントとヘーゲルの主張を理解する。	・自由と人間の尊厳についてのカントの考え方を理解している。 ・自由についてのヘーゲルの考え方を理解している。	・p. 33のCheckを通じて、カントの道徳法則の考え方を読み取り、多面的に考察している。 ・カントの考える自由とヘーゲルの考える自由の違いについて、p. 34「TRY」を利用して、多面的に考察し、適切に表現している。	・よりよい社会の実現を視野に、人間の自由についての先哲の考え方への深い理解を通して、公共的な空間における人間としてのあり方生き方についての自覚を深めようとしている。
5. 個人と社会		○近代ヨーロッパであられた、社会の改良や改革を唱える思想とはどのようなものだろうか。 ・社会の改良や改革を唱えた、功利主義と社会主義の主張を理解する。	・社会の改良をめざした、ベンサムとミルの考え方を理解している。 ・社会の変革をめざした、マルクスの考え方を理解している。 ・p. 36のCheckを通じて、快楽と苦痛についてのベンサムの考え方を適切に読み取っている。	・個人と社会の利益の調和について、p. 37「TRY」を利用して、多面的に考察し、適切に表現している。 ・社会主義を学ぶことの意義について、p. 37「TRY」を利用して、多面的に考察し、適切に表現している。 ・大規模開発の思考実験について、p. 44～45「Trial」を利用して、協働的に考察・構想し、それらを適切に表現している。	・よりよい社会の実現を視野に、個人と社会の関係についての先哲の考え方への深い理解を通して、公共的な空間における人間としてのあり方生き方についての自覚を深めようとしている。
6. 主体性の確立		○実存主義の思想家たちの人間観・主張を理解する。	・人間についての実存主義の思想家たちの考え方を理解している。 ・主体性の確立についてのキルケゴール、ニーチェ、ヤスパーズ、ハイデガー、サルトルの考え方を理解している。	・p. 39のCheckを通じて、人間についてのサルトルの考え方を読み取り、多面的に考察している。 ・主体性をどのように確立すべきかについて、p. 37「TRY」を利用して、多面的に考察し、適切に表現している。	・よりよい社会の実現を視野に、人間の主体性についての先哲の考え方への深い理解を通して、公共的な空間における人間としてのあり方生き方についての自覚を深めようとしている。
7. 他者の尊重 8. 公正な社会		○現代の思想家たちは、他者についてどのように考えたのだろうか。 ・他者について思索した思想家たちの主張を理解する。 ○現代の思想家たちは、他者とどのようにして公共性を確立しようと考えたのだろうか。 ・公共性の確立について思索した思想家たちの主張を理解する。 ○思想家たちの考える公正な社会とはどのような社会だろうか。 ・社会の公正なあり方について思索した思想家たちの主張を理解する。	・他者についてのレヴィ=ストロース、フーコー、レヴィナスの考え方を理解している。 ・公共性の確立をめざした、ハーバーマスとアーレントの考え方を理解している。 ・公正な社会のあり方についてのロールズの考え方を理解している。 ・ロールズの正義論を批判した、リバタリアニズムとコミュニタリアニズムの考え方を理解している。 ・人々の潜在能力の拡大をめざした、センの考え方を理解している。	・p. 41のCheckを通じて、市民的公共性についてのハーバーマスの考え方を読み取り、多面的に考察している。 ・他者を尊重することについて、p. 41「TRY」を利用して、多面的に考察し、適切に表現している。 ・p. 43のCheckを通じて、ロールズの正義の原理の考え方を読み取り、多面的に考察している。 ・公正な社会について、p. 43「TRY」を利用して、多面的に考察し、適切に表現している。 ・共有地の悲劇の思考実験について、p. 48「Trial」を利用して、協働的に考察・構想し、それらを適切に表現している。	・よりよい社会の実現を視野に、他者や他者とともに公共性を確立することについての先哲の考え方への深い理解を通して、公共的な空間における人間としてのあり方生き方についての自覚を深めようとしている。 ・よりよい社会の実現を視野に、社会の公正なあり方についての先哲の考え方への深い理解を通して、公共的な空間における人間としてのあり方生き方についての自覚を深めようとしている。

学習内容	学期	学習のねらい	観点別評価基準		
			知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
1. 人間の尊厳と平等 2. 自由・権利と責任・義務		○人間の尊厳と平等といった原理の背景にある考え方を理解する。 ○差別や偏見を是正するための取り組みやその背景にある考え方を理解する。 ○個人の自由や権利がどのように認められるのかを理解する。 ○自由・権利と責任・義務の関係が将来世代の問題としても考えられることを理解する。	・人間の尊厳や平等について、その背景にある生命尊重と非暴力の思想や、個人の尊重の考え方を理解している。 ・差別を是正するための取り組みとして、男女共同参画の実現のためにおこなわれている措置を理解している。 ・差別や偏見を是正するために求められる、寛容の考え方を理解している。 ・個人の自由・権利が認められるには、他者の自由・権利との調整が求められることについて理解している。 ・自由・権利と責任・義務の関係について理解している。 ・世代間倫理の考え方を理解している。	・p. 53のCheckを通じて、寛容についてのヴォルテールの考え方を読み取り、多面的に考察している。 ・人間の尊厳や平等について、p. 53「TRY」を利用して、多面的に考察し、適切に表現している。 ・男女共同参画社会を実現するための望ましい方策について、p. 56「Active」を利用して、協働的に考察・構想し、それらを適切に表現している。 ・p. 55のCheckを通じて、ミルの他者危害原理の考え方を読み取り、多面的に考察している。 ・将来世代の利益を考慮した公正な意思決定について、p. 55「TRY」を利用して、多面的に考察し、適切に表現している。	・よりよい社会の実現を視野に、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、人間の尊厳と平等、個人の尊重といった公共的な空間における基本的な原理について理解しようとしている。 ・よりよい社会の実現を視野に、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、自由・権利と責任・義務といった公共的な空間における基本的な原理について理解しようとしている。
1. 人権保障の発展と民主政治の成立		○民主政治の誕生と発展について理解する。 ○基本的人権の歴史的発展について理解する。	・政治と国家が何であることを理解している。 ・民主政治の歴史的な発展と社会契約説の考え方について理解している。 ・法の支配の考え方と自由権や社会権をはじめとする基本的人権の歴史的な発展、立憲主義の考え方について理解している。	・p. 64のCheckを通じて、アメリカ独立宣言で示されている権利を読み取り、日本国憲法との関連について多面的に考察している。 ・政治について、p. 65「TRY」を利用して、適切に表現している。	・よりよい社会の実現を視野に、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、民主主義、法の支配といった公共的な空間における基本的な原理について理解しようとしている。
2. 国民主権と民主政治の発展		○民主政治の意義と課題は何だろうか。 ・民主政治の意義と課題について理解する。 ○民主政治の諸原理は、各国の政治制度にどのように反映されているのだろうか。 ・議院内閣制・大統領制をはじめとする各国の政治制度について理解する。	・議会制民主主義と多数決原理、民主政治の課題について理解している。 ・権力分立の考え方と議院内閣制・大統領制をはじめとする各国の政治制度の特徴について理解している。 ・p. 70～72のCheckを通じて、それぞれの政治制度の特徴を比較の観点から適切に読み取っている。	・多数決の長所と短所について、p. 68～69「Trial」を利用して、協働的に考察・構想し、それらを適切に表現している。 ・民主主義の課題について、p. 72「TRY」を利用して、適切に表現している。	・よりよい社会の実現を視野に、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、民主主義といった公共的な空間における基本的な原理について理解しようとしている。
定期考査	2				
1. 日本国憲法の成立	2 学期 (24)	○二つの憲法の特徴と相違点について理解する。 ○憲法の最高法規性について理解する。	・二つの憲法の原理と相違点について理解している。 ・憲法の最高法規性と憲法改正の手続きについて理解している。 ・p. 77のCheckを通じて、明治憲法下の政治機構と日本国憲法下の政治機構の相違点を適切に読み取っている。	・p. 78のCheckを通じて、日本国憲法と大日本帝国憲法の相違点を読み取り、憲法改正の手続きについて多面的に考察している。 ・憲法の意義について、p. 79「TRY」を利用して、多面的に考察し、適切に表現している。	・憲法について主体的に追究して、学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。
2. 平和主義とわが国の安全		○日本の安全保障政策の展開について理解する。 ○こんにちの安全保障政策の課題について理解する。	・日本国憲法の平和主義の内容と日米安保体制がうまれた背景について理解している。 ・1990年代以降の安全保障体制の変容とこんにちの課題について理解している。 ・p. 84のCheckを通じて、自衛権に関する政府解釈の変化を適切に読み取っている。	・安全保障について、p. 85「TRY」を利用して、多面的に考察し、適切に表現している。 ・沖縄の基地問題について、p. 86～87「Seminar」を利用して、協働的に考察・構想し、それらを適切に表現している。	・我が国の安全保障と防衛について主体的に追究して、学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。
3. 基本的人権の保障		○日本国憲法が保障する基本的人権について理解する。 ○人権に関する現実社会の課題について理解する。	・自由権・平等権・社会権などの諸権利の内容について理解している。 ・冤罪や死刑制度、さまざまな差別、生存権の保障など、人権に関する現実社会の課題について理解している。	・死刑制度の是非について、p. 91「Active」を利用して、協働的に考察し、適切に表現している。 ・在日外国人の権利について、p. 95「Active」を利用して、協働的に考察し、適切に表現している。	・基本的人権について主体的に追究して、学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。

学習内容	学期	学習のねらい	観点別評価基準		
			知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
4. 人権の広がり		○新しい人権について理解する。 ○公共の福祉について理解する。	・環境権・知る権利・プライバシーの権利などの新しい人権の内容とそれらの権利が主張されるようになった背景について理解している。 ・社会的権力による人権侵害の課題や人権の国際化の動きについて理解している。 ・公共の福祉の内容について理解している。	・国際的な人権条約の批准について，p.102「Check」を利用して，多面的に考察し，適切に表現している。 ・新しい人権について，p.102「TRY」を利用して，多面的に考察し，適切に表現している。 ・公共の福祉について，p.103「Active」を利用して，協働的に考察し，適切に表現している。	・新しい人権，法や規範の意義及び役割について主体的に追究して，学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。
1. 政治機構と国民生活		○国会と内閣の構成について理解する。 ○官主導社会とその課題について理解する。	・国会の役割や権限について理解している。 ・議院内閣制のしくみや内閣の権限について理解している。 ・官主導社会の特徴と課題，その転換に向けたさまざまな改革について理解している。	・p.114のCheckを通じて，議員立法と政府立法に関する情報を読み取り，その課題について多面的に考察している。 ・内閣総理大臣の権限について，p.116「Q&A」を利用して，協働的に考察し，適切に表現している。	・日本の政治機構について主体的に追究して，学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。
2. 人権保障と裁判所		○司法権の独立や裁判について理解する。 ○裁判員制度や検察審査会について理解する。	・司法権の独立や裁判のしくみ，各裁判所の役割について理解している。 ・違憲審査権について理解している。 ・裁判員制度や検察審査会の意義と役割について理解している。	・違憲審査会の行使のあり方について，p.118「Opinion」を利用して，協働的に考察し，適切に表現している。 ・裁判員制度について，p.120～121「法Seminar」を利用して，多面的に考察し，適切に表現している。	・司法制度のあり方や司法参加の意義について主体的に追究して，学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。
3. 地方自治		○「地方自治の本旨」とはどのようなものだろうか。 ・地方自治の本旨について理解する。 ○地方自治はどのような課題を抱えているのだろうか。 ・戦後の地方自治の課題や地方分権改革について理解する。	・地方自治の本旨である，団体自治と住民自治について理解している。 ・地方自治の政治・経済的な課題や都市と地方の格差の課題，それらへの対策としておこなわれたさまざまな改革について理解している。 ・自治基本条例の制定や自治立法，住民投票などの新しい地方自治の動きについて理解している。 ・p.122のCheckを通じて，地方公共団体の長と議会の関係を適切に読み取っている。 ・p.124のCheckを通じて，地方財政の課題を適切に読み取っている。	・都市と地方の格差について，p.125「Active」を利用して，協働的に考察し，適切に表現している。 ・住民投票について，p.126「Opinion」を利用して，協働的に考察し，適切に表現している。 ・地方議会の課題について，p.127「Q&A」を利用して，多面的に考察している。 ・地域社会の課題とその解決策について，p.128～129「Seminar」を利用して，協働的に考察・構想し，それらを適切に表現している。	・地方自治について主体的に追究して，学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。
4. 選挙と政党		○日本の選挙制度の種類と課題は何だろうか。 ・各選挙制度の特徴と課題について理解する。 ○日本の政党政治の課題は何だろうか。 ・日本の政党政治の特徴と課題について理解する。	・日本の選挙制度の種類とそれぞれの特徴，議員定数の不均衡などの課題について理解している。 ・p.130のCheckを通じて，日本の女性議員の割合を適切に読み取っている。 ・p.135のCheckを通じて，政治改革以降の政党政治の特徴を適切に読み取っている。	・公正な選挙制度のあり方について，p.133「Opinion」を利用して，協働的に考察し，適切に表現している。	・選挙制度と政党政治について主体的に追究して，学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。
5. 政治参加と世論		○マス・メディアやSNSの役割と政治にもたらす影響について理解する。 ○政治参加の課題について理解する。	・マス・メディアやSNSが世論形成と政治にもたらす影響について理解している。 ・投票率の低下や無党派層の増加などの課題について理解している。 ・p.138のCheckを通じて，投票率と選挙結果の関係を適切に読み取っている。	・国政への民意の反映について，p.139「Active」を利用して，協働的に考察し，適切に表現している。 ・市民の政治参加について，p.139「TRY」を利用して，多面的に考察し，適切に表現している。 ・p.142～144「Seminar」とp.145「Trial」を利用して，政治参加の意義について，多面的に考察している。	・政治参加と公正な世論の形成について主体的に追究して，学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。
1. 経済社会の形成と変容		○資本主義経済が成立，発展してきた時代背景を確認する。 ○政府の規模を念頭にして，経済的な課題への対応を考える。	・資本主義経済の成立と展開，経済における政府の役割の変化について理解している。 ・p.151のコラム「Active」の資料を活用し，日本の政府規模について読解することができる。	・資本主義経済の成立以降，経済社会がどのように展開していったか，政府の役割の変化と関連させて考察している。 ・大きな政府と小さな政府の考え方について，p.151のコラム「Active」を利用しながら協働的に考察・構想し，それらを適切に表現している。	・資本主義経済の変遷，社会主義経済の特徴と変容，現代資本主義の課題について主体的に追究して，学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。

学習内容	学期	学習のねらい	観点別評価基準		
			知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
2. 市場のしくみ		○市場経済の機能と限界を理解する。 ○市場経済システムを機能させる役割を政府などが担っていることについて理解する。	・ p.154のQ&A「需要曲線と供給曲線って何？」の具体例を活用し、価格をシグナルとして需要と供給の変化が図形的にどのように変化するかを理解し、資源の効率的な配分をもたらす市場の機能について理解している。 ・寡占や独占，外部不経済，情報の非対称性など市場機能の限界について理解している。	・ p.154のQ&A「需要曲線と供給曲線って何？」の具体例を活用し、価格をシグナルとして需要と供給の変化が図形的にどのように変化するかを考察し、その背景や影響について適切に表現している。 ・ p.157の「TRY」を利用しながら，寡占市場，独占市場，外部不経済などの市場の限界について，具体的な事例も想起しながら考察している。	・市場メカニズムの働きや市場の限界について主体的に追究して，学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。
3. 現代の企業		○株式会社の経営はどのように行われているのだろうか。 ○生産の主体である企業の形態や活動，株式会社の特色，グローバル化による企業の経営環境の変化や課題などについて理解する。	・現代の企業の区分，株式会社の特色について理解し，その知識を習得している。 ・ p.161のQ&A「株式って何？」を活用し，株式や株式会社のしくみについて理解している。	・現代経済において株式会社の形態が多いことの原因や，企業の社会的責任（CSR）が求められていることについて考察している。 ・企業経営における所有と経営の関係，株主と利害関係者の利益について，p.160の「TRY」を利用して，協働的に考察・構想し，それらを適切に表現している。	・企業の形態や活動，現代の企業の特色や課題について主体的に追究して，学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。
4. 経済成長と景気変動		○国家の経済活動の規模を表す指標にはどのようなものがあるか。 ○国家の経済活動の規模をあらわし，経済の動きの指標としてのGDP，国富について理解するとともに，経済成長，景気循環，物価について理解する。	・ p.165のQ&A「GDPって何？」を活用し，GDPなどの経済の指標の使い方や限界を理解している。 ・経済成長と景気循環，物価とインフレ・デフレの生活への影響について理解している。	・経済の規模や変動を示す際にGDPが欠かせない指標となっていること，国富などストックの指標も重要であることを考察している。 ・豊かさをあらわす指標には，どのような要素が必要であるのか，国の豊かさを数値化する意味について，P.164「TRY」を利用して，多面的に考察している。	・GDPの意味やどのような時にGDPの指標が用いられているか主体的に追究して，学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。
5. 金融機関の働き		○現代の経済社会における金融の意義や役割を理解するとともに，金融市場の仕組みと金利の働き，銀行，証券会社，保険会社など各種金融機関の役割を理解する。 ○中央銀行の役割や金融政策の目的と手段について理解する。	・金融の仕組みと金融機関の役割，通貨価値の安定や景気安定のための金融政策や金融の自由化などの動きについて理解している。 ・日本銀行の金利調整について，p.172のQ&A「公開市場操作って何？」を活用し，日本銀行の量的緩和と政策のしくみを理解している。	・金融の意義と働きについて，信用創造のしくみの図解等を活用して，具体例に即して考察している。 ・ p.173「Check!」を利用して，景気変動と金利の相関，我が国の金利政策の特徴について，考察している。 ・ P.173「Opinion」を活用して，金融政策の手段と効果について多面的に考察している。	・金融や金融政策における中央銀行の役割について関心を持ち，金融の自由化や国際化について主体的に追究して，学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。
6. 政府の役割と財政・租税		○政府の経済活動である財政にはどのような役割があるのだろうか。 ○日本の財政システムにはどのような特徴があり，どのような課題があるのだろうか。 ・政府の財政活動の役割，財政政策，租税の仕組みについて理解するとともに，財政に関わる課題について理解する。	・市場経済において政府は，市場システムを機能させたり，国民生活の向上と福祉の充実のために，民間部門では十分には供給することの難しい財やサービスを提供したりする役割があること，所得再分配や経済の安定化を図る役割があることを理解する。 ・租税を中心とした公的負担の意義と必要性，納税が国民の義務であること，税金がどのように使われているかなどについて理解する。	・国民負担率と経済成長率の間には負の関係が観察されること，国民負担率を抑制するためには行政の一層の効率化が求められることなど多面的・多角的に考察，構想し，表現している。 ・財政の働きや財政政策，租税の仕組みについて，図やグラフなど，教科書記載の資料を活用して考察している。	・現代経済において政府の役割が求められる背景について関心を持ち，また，税制について主体的に追究して，学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。
定期考查	2				
1. 日本経済の歩みと近年の課題	3 学期 (17)	○日本経済はどのような変化をとげてきたのだろうか。 ・歴史的な事象が日本経済に与えた影響を，統計資料を基に考える。 ○現在の日本経済はどのような課題を抱えているのだろうか。 ・人口減少社会が経済に与える影響を考える。	・戦後復興，高度経済成長，バブル経済の発生と崩壊などの背景や要因について理解している。 ・高度経済成長期，安定成長期，現在の成長率について，p.188の図3から傾向を適切に読み取り，把握している。 ・ p.191のCheckを通じて，他国と比較した日本の成長率の推移を読み取ることができる。 ・ p.192「Seminar」を利用して，日本での所得格差や貧困の課題について理解している。	・2000年代以降，景気が拡大しても経済成長率が伸び悩んでいる理由について，多面的・多角的に考察している。 ・ p.191のCheckを通じて，産業別人手不足の将来予測に関する情報を読み取り，その理由について多面的に考察している。 ・現在の日本経済の課題について，p.191「TRY」を利用して，多面的に考察し，適切に表現している。	・今後の日本経済がどのような豊かさを目指していくべきかについて主体的に追究して，よりよい社会の実現を視野に学習したことを社会生活に生かそうとしている。

学習内容	学期	学習のねらい	観点別評価基準		
			知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
2. 中小企業と農業		○中小企業とは何か。大企業とはどのような点で違いがあるのだろうか。 ・経済の二重構造に注目して日本経済のあり方を考える。 ○これからの中小企業や農業には、どのようなことが求められているのだろうか。 ・これからの中小企業や農業の姿を考える。	・p. 194のCheckを通じて、大企業と中小企業の違いを読み取ることができる。 ・p. 195「Seminar」を利用して、大企業では事業を進められなかった分野で活躍する中小企業のあり方について理解している。 ・p. 196のCheckを通じて、食料自給率に関する日本の傾向を読み取ることができる。	・日本経済の基盤ともいえる中小企業が、自立的に成長していける環境を作り出すためにどのような政策が必要か、協働的に考察し、その結果を適切に表現している。 ・現在の日本農業について、p. 191「TRY」を利用して、協働的に考察・構想し、それらを適切に表現している。	・今後の中小企業や農業のあり方について主体的に追究して、学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。
3. 公害防止と環境保全		○経済成長と公害問題との関係を考える。 ○持続可能な社会をめざすためのさまざまな制度や取り組みについて理解する。	・日本における公害の発生と原因を理解している。また、その際にp. 200の四大公害訴訟に関する表から、必要な情報を適切に読み取っている。 ・パリ協定や環境税、ESG投資、RE100などといった、地球環境問題を解決するための新しい制度や取り組みについて理解している。	・P. 202「Opinion」を活用して、環境保全と経済活動の両立について協働的に考察・構想し、それらを適切に表現している。	・今後の環境問題の解決について主体的に追究して、学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。
4. 消費者問題		○消費者問題にはどのようなものがあるだろうか。 ・さまざまな問題があることを理解する。 ○必要な法整備と消費者の責任について考える。	・消費者問題にはどのようなものがあるか理解している。 ・消費者保護基本法から消費者基本法にいたる消費者行政の内容を知り、求められる消費者像の変遷について理解している。 ・p. 206 ～207「法Seminar」を通じて、契約の効力が発生する要件や、消費者契約法に定められている契約取り消しの意義などについて理解している。	・消費社会の拡大や過度な宣伝等について問いを見出し、消費者主権や消費者の権利の観点などから協働的に考察・構想し、それらを適切に表現している。 ・消費者としてのあり方について、p. 205「TRY」を利用して、多面的に考察し、適切に表現している。	・消費者の自立と自己責任について関心を深め、消費者の権利と責任に関する課題を意欲的に解決しようとしている。
5. 労働問題と雇用		○職場環境や労働者の諸権利に関して、どのような課題があるだろうか。 ・労働法の整備状況や、職場の人権保障について考える。 ○雇用や労働慣行にどのような変化や課題が生じているだろうか。 ・日本の雇用形態の変化や、ワーク・ライフ・バランスについて考える。	・労働基本権と労働三法の内容について理解している。 ・日本的雇用形態の特徴を理解しており、また、それらのあり方が崩れてきていることを理解している。 ・労働環境について、各国比較によって日本の特徴を適切に読み取り、まとめることができる。 ・p. 214「Seminar」を通じて、ジョブ型雇用とメンバーシップ型雇用の違いについて理解している。 ・p. 215「Seminar」を通じて、技術革新によって多様な働き方が可能になっていることを理解している。	・なぜ労働法規によって労働者の権利保護が図られているのか協働的に考察し、それらを適切に表現している。 ・安定した雇用を優先するか、多様な働き方を優先するか、p. 213「TRY」を利用して、多面的に考察し、適切に表現している。 ・ワーク・ライフ・バランスについて、p. 216「Active」を活用し、協働的に考察をおこない、それらを適切に表現している。	・よりよい社会の実現を視野に、ワーキングプアの解消やワーク・ライフ・バランスの実現を目指して、学習した内容を社会生活に生かそうとしている。
6. 社会保障		○日本の社会保障制度のしくみは、どのようなになっているだろうか。 ・諸外国の制度との比較も含めて考える。 ○今後の社会保障制度はどうあるべきだろうか。 ・少子高齢化が進行する中で、望ましい制度のあり方を検討する。	・社会保障の考え方を知り、それらが歴史的にどのように制度化されてきたかについて理解している。 ・日本の社会保障制度が諸外国との比較でどのようなものであるかを知り、また、その概要を理解している。 ・p. 220～221のCheckを通じて、少子高齢化が進行する中で、社会保障が直面している問題について、適切に読み取っている。 ・p. 223「Seminar」を通じて、日本の年金制度の特徴と課題について理解している。	・社会保障のあり方について、税金中心のしくみと社会保険中心のしくみでどのような違いがあるか協働的に考察し、それらを適切に表現している。 ・公的年金制度について、税方式と社会保険方式のどちらが持続可能か、また、どちらがより公平かという観点から協働的に考察し、それらを適切に表現している。 ・p. 224～225の「Active」を利用して、これからの社会保障制度をどのように形成していくべきかについて、多面的・多角的に考察したうえで、給付と負担のバランスについて選択・判断し、それらを適切に表現している。	・安心して暮らせる豊かな社会について主体的に追究して、社会保障を社会の中で有効に働かせるための課題を意欲的に解決しようとしている。
定期考査	1				